資料 3

徳島県周産期医療協議会専門部会調査結果報告について

①　調査の概要

・対象期間　平成２１年１月１日～平成２４年１２月３１日

・検討方法　医療機関から回収した乳児死亡調査票及び厚生労働省人口動態調査により把握した症例毎の分析・検討（89例）。

②　結果のまとめ

・超低出生体重児の死亡率が平成２３，２４年と高くなっている。

・妊娠２４週以下で出生した児の死亡率が高い。

・平成２３年は超早産症例の２組（４例）が多胎，平成２４年は１組（２例）が多胎。全てが緊急母体搬送である。

・平成２２年までと比較して，近年は救命不可能と思われる先天奇形，染色体異常が急増している。

・平成２３年，２４年の乳児死亡数の増加は，乳児期の死亡数の増加が原因であった。

③　考察

・超早産（特に２４週以下の分娩）を減少させることが必要であり、多胎妊娠の緊急搬送は避けるべき。

・救命可能な症例（先天性心疾患）があるかどうかを個別に検討することが必要

・乳児期（生後２８日以上）における超早産児の死亡原因を再考し、個別に検討する必要有り